

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700323		
法人名	株式会社 翔里		
事業所名	グループホーム翔里 一番館		
所在地	〒859-5512長崎県平戸市津吉町1051		
自己評価作成日	平成22年2月12日	評価結果市町村受理日	平成22年4月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四方に広がる農道と山に囲まれた景色の中に、大きな病院を改築してオープンした。廊下・洗面所・洗濯室・お風呂などゆとりのあるスペースがあり、気分もゆったりとなる感じ。外観は、病院後ということもあり以前外部評価時、冷たい感じがすると指摘を受け、施設周り、玄関にプランタンに花を植え置いている。施設に登ってくるころにも花を植えたりして工夫をしている。掃除は、利用者様が床にねっころがられても大丈夫なくらい、毎日床拭きを手で行っている。裏には、畑があり、季節ごとに花や、野菜を作っている。運営理念の中に「心の目」とうたっているが、利用者様の思いに少しでも近づけるよう「心の目」をもって支援していている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平戸口から車で40分ほどかけて到着する地域に、当ホームが存在している。デイサービスが併設されており、入居者とデイサービス利用者との交流や家族の訪問も多い。職員は地域住民が多いため、地区の行事や広報誌による情報がすぐ分かり保育園や小学校などの交流も盛んに行われており、地域に密着しているホームである。職員が働きやすい環境整備をされていることも、入居者にとっては頼もしく、安心して暮らせるホームとして今後の活躍を期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、申し送り等が終わった後、運営理念を唱和し、職場の教養という冊子を用いて感じていること、思いなど話し合っている。	「職場の教養」という月刊誌に日替わりで倫理的標語が載っている。それを一日の目標として唱読し、運営理念の中の「心の目」を意識した介護の実践につなげられている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が日常的に来られたり、施設側から日常的に出かけて行ったりというところまでは出来ていないが、地域のスーパーに買い物にでかけたり、ドライブに出かけることはある。	本来は病院として地域に存在していた建物であるため、地域に溶け込んでいる。地域交流として、小学5年生が、高齢者との交流学習が毎年あり、保育園からの慰問や入居者を招待されるなど豊かな交流をされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度までは地域の老人会、民生委員の方の集まり、いきいきサロンの集まりで等話をさせていただく機会があったが、今年度は出来ていない。こちらからの働きかけが行えていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項、懸案事項について、次の会議で取り上げることもあるが、一つ一つ積み上げるところまでは至っていない。会議のないようについて職員には単発的に報告しているが、そのことについて話し合う場などは現在ない。	3ヶ月に1回、運営推進会議を開催しているが、22年度からは、2ヶ月に1回の開催を目指されている。家族参加のきっかけ作りを検討課題とされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加されており、その場で情報交換が出来たりしているが、密に連携が取れているとは言えない。	運営推進会議には、市の担当職員が必ず出席されている。問題が大きく対応困難な入居者について相談まではされておらず、苦慮されている。	問題をホームで抱え込まず解決に向けて選択肢を広げられることを期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しているとは言えない。基準について正しく理解する機会を設ける。	行動障害が周囲まで影響を与えている入居者から、他の入居者を守るために、その方の隣室に施錠をされており、2階の階段部分にも柵と施錠がされているなど、他の入居者に対しての行動の抑制が見受けられた。	高度の難聴で認知症が進行された入居者への対応が、やむ終えない処置だが、他の入居者への行動の抑制に繋がっている。職員全員が身体拘束について認識を高められる事と共に、解決の糸口を見出されることに期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について勉強会などで理解する機会が取れていない。今後、学ぶ機会を持つ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について学ぶ機会がもてていない。施設内勉強会、各部署でのミーティング等で機会を持つようにしていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り説明を行っている。利用料金について、起こりうるリスク、重度化した場合の対応についてなどは特に詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言葉や態度から思いを察する努力はしている。利用者様の不安などは各ユニットごとに話し合いを持つようにしている。ご家族より意見をいただく場として、面会時にコミュニケーションをとるよう心がけ、家族会などでも意見を聴かせていただけるよう働きかけている。	家族面会時には、時間をとって家族とのコミュニケーションで要望など無いか聞き出す努力をされている。それでも意見の抽出は困難な状況が現状で、家族へのアンケート調査を検討されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなど月1回行っており、その中で意見を聴く様になっている。日頃からコミュニケーションをとるよう心がけ意見を言いやすくする努力はしている。	休憩時間は交代で1時間取られており、職員の要望は実現可能な範囲で運営に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回の全体ミーティングの中で、現場の状況に変化があった場合、管理者より代表者には、報告を行っているが、現場の状況をもっと知って欲しいとの意見もあった。職員の急病、急な休みにも職員全員がお互い様との思いを持ち臨機応変、勤務交代を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成21年度は、施設外・施設内共に研修の機会が少なかった。施設外研修については、1年間に最低でも1回は全職員が参加できるよう段階的・計画的な学びの機会を持つ。現在も、研修報告会などは行っているが、研修報告書を閲覧できるようにしていない。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は実現できていないが、運営上のことや、現場の実習等などの協力を頂いたりして連携を取っている。まず、同業者同士交流も兼ね施設見学等から始めていったらどうかとの意見が出された。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面接で生活状況を把握するよう、また、本人様の思いに向き合うよう努めている。話をよく聴くように心がけている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初回面接では、まずご家族の状況が把握できるようゆっくり困っていることなど話を聴き、信頼関係を作ることが出来るよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時本人やご家族の思い、状況を確認し、その時必要としている対応が出来るようにしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知らせることが出来るよう努め、共に支えあえるような関係づくりに留意している。食事の準備、野菜作りなどのときは、特にこれまでの経験から指導していただくことも多い。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者様の様子や職員の思いを伝え、ご家族の方が不安に思っていることはないのか？等、つかめるように努力している。ご家族と職員の思いが徐々に重なり、利用者様を支援していくための協力関係が築けるようになった。課題は、面会等が定期的に行うことが難しいご家族へは、電話・手紙等で近況等を報告はしているが十分とはいえない。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>昔から利用されている美容院にご家族の協力の下、行き続けておられる利用者様、馴染みのお店で食事を楽しまれる利用者様もいらっしゃる。一人ひとりの生活習慣を尊重するよう努力はしている。地域に暮らす馴染みの知人・友人などが遊びに来られることもある。また、買い物に出かけられた時に、馴染みの知人と会話を楽しまれるような場面もある。</p>	<p>地区住民の職員から地域行事の情報が入る。ゴールデンウィークに合わせた自宅への外泊を毎年されている方や、デイサービス利用者との交流など、馴染みとの関係を継続する支援をされている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個別に話を聴く機会をつくったり、相談をゆっくり聴いたり、気の合う者同士で過ごせる場面が自然と出来たり、利用者様同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。又、利用者様がストレスを抱えることが少なくなるようにも注意深く見守り支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、利用者様、ご家族の方が困らないように相談していただけることを話している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のかかわりの中で声を掛け、把握に努めるようにしている。意思疎通の困難な利用者様については、ご家族・関係者などから情報を得ながら本人様の意向に近づけるようにしている。	日頃から夜勤や入浴時、散歩などを通して、思いを傾聴する姿勢を持つように努力されている。意思疎通が困難な方には、家族との関わりを持つ事で、意向に沿うための対応をされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、自宅に訪問し利用者様、ご家族の方から生活歴、ライフスタイル、個性など情報収集しご本人様の全体像が描けるように努めている。利用後も折に触れ、ご本人様、ご家族の方にどんな生活をされていたのかを聴いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らし方や生活リズムを理解すると共に、心理面やご本人様の出来る力・わかる力に注目し、利用者様全体の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様がその人らしく暮らせるようご本人様やご家族の要望を聴き、介護計画、モニタリング等に活かしているとは言い難い。	生活記録に介護計画の反映が十分ではない事を、管理者は自覚されているが、実践されていない。	日常生活のチェック表の重複記載や、記録の見直しなどを職員全員で検討されていかれることに期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、食事・排泄・バイタル・内服・身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなども記録しその場に出動していない職員も状況が描けるようにしている。勤務開始前には、記録等を確認し最新情報を把握した上で業務につくことを徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族の状況に応じて、通院や外出時等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が、安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員や消防、老人会の方と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族の方が希望されるかかりつけ医となっている。受診の経過、現在の受診の希望等を把握して受診の支援が来ている。	入居者の大半は協力医療機関が、かかりつけ病院であり、受診支援は職員が連れて行く。違いかかりつけ医への受診は家族が対応されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が各ユニットに配置しており、常に利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間帯は、介護職員の記録を基に連携を取っている。また、緊急事態には看護職員に連絡を取り指示を仰ぐようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、出来る限りダメージを極力防ぐためその後も医療機関と連携を取っている。また、ご家族と情報交換しながら、回復状況でスムーズな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の事業所の方針について入居相談段階から説明し、利用後も状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化やご本人様のお思いに注意を払い、支援につなげている。安心して検討ができるように情報提供を行っている。	重度化や終末期を迎えられ、医療が継続的に必要な状態になると、当ホームでは看取りまではしない方針を、家族に対して入居時に説明されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署等の協力を得て、年に一回の応急手当の勉強会を実施している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路等の確認、消火器の使い方、煙体験など行った。運営推進会議にて民生委員の方より協力体制のことについて積極的な意見が出され現在検討中。	建物が元病院であるため、避難経路や防火扉などの設備が完備されており、スプリンクラー設置も済まされている。また、地区消防団の方が運営推進会議にも参加されており、自然災害も検討課題とされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には出来ているが、勉強会やミーティング等の折に、職員の意識向上を図ると共に、日々のかかわり方を点検し、利用者様の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。職員相互で点検しあいながら、ミーティングの場で確認と改善を行っている。	運営理念の「心の目」を意識した「職場の教養」冊子を毎朝の申し送り時に読み上げ、馴れ合いにならないように、入居者の尊厳を損なわない介護に努め、問題があった場合は、職員間で注意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせて声掛けを行い、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、身振り手振りで本人が決める場面をつくっている(飲みたいもの、食べたいもの、やりたいことなど)。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方にはならないよう努めている。その日をどう過ごしたいのか自ら表現する方は少ないが、夜間など職員と心ゆくまでお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむなど、利用者様のペースにそって、見守りながら一緒に楽しんでいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所にくしを置いていつでも使用できるように準備している。朝の着替えは、本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝っている。自己決定が困難な利用者様には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちに沿って支援するように心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は、利用者様と相談したり、問いかけたりしながら決めるようにしている。また、買い物、調理(もやしの芽つみ、豆のすじとり、つわむき、ごぼうそぎ等)、片付けなども利用者様と共に行い、職員(献食者)も一緒に同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。	朝、昼、夕食の担当職員と入居者の希望を取り入れメニューを決め買い物に行く。ホームの畑や差し入れの野菜を入居者が下ごしらえや、後片付けをされており、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は嗜好等も採り入れながらバランスを配慮したのものになっている。水分については、食事、おやつ以外の摂取時は、介護記録へ記載している。食べられないものがある場合は、別メニューを準備している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は、義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、尿意の表現が困難な利用者様にも時間を見計らって、また、本人の行動変化などで誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。入居時、リハビリパンツを使用していた方も現在は、布パンツに尿取りパットのみで可能となった方もおられる。	昼間はトイレ誘導し、夜間のみ尿とりパット使用され、2ユニットで3名ポータブルトイレを使用されている。昼間はほぼ全員が布パンツを使用されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容等の工夫、乳製品を取り入れ自然に排便できるように努めている。また、散歩、体操などを取り入れている。下剤については、利用者様の状況によって必要最小限調整しながら使用することもある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯については、本人の生活習慣に合わせて行うことは出来ない。入浴を拒む人に対しては、言葉掛けや入浴の順番など対応の工夫をしている。	入浴曜日や時間帯は、おおよその流れなど計画をされている。入浴拒否がある方には、時間をずらしたり、トイレ誘導時に入浴を促すなど個別対応をされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情などを考慮して、ゆっくり休息が取れるように支援している。就寝前に水分補給(暖かい飲み物など)なども行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態に変化がみられる時は、いつもよりも詳細な記録をとるようにし、看護師や医療機関との連携を取るようになっている。各個々人の服薬内容の理解、病状について等、再認識しなおす機会を設ける予定。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野で力を発揮していただけるようお願いできそうな仕事を頼み(掃除、洗濯物たたみ、食事の準備・配膳・片付け、縫い物など)、感謝の言葉を伝えるようにしている。本人の役割・楽しみなどご家族からの情報も得ながら行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分・希望に応じて常に行うことは出来ないが、季節を肌で感じてもらえるように外出行事などは取り入れて、本人の希望なども聴きとりいれるように努めている。	家族が買い物に連れて行かれることや季節や天候状態を見て、広い敷地内を散歩など行っている。今の季節は寒い為、外気に触れる機会を持つようにしているが、入居者から嫌がられることが多いので、窓から外を眺めて過ごされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て少額のお金を持ってもらっている方もいる。ご家族からお小遣いを預かり、事業所が管理している方でも、外出時などには、お金を持っていただき自ら支払っていただいたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて日常的に電話をかける支援をおこなっている。手紙に関しても、一緒に書きましょうか？と声掛けを行うが、現在のところ書こうといわれる方はいらっしゃらない。手紙や贈り物が届いた場合は、お礼の電話をかけられないか尋ねたりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるような雛人形を飾ったり、七夕、クリスマスなどそれぞれ工夫している。冷暖房なども季節の自然の風を取り入れるようにしており、音や光の刺激などに配慮している。	ホーム内や玄関ホールなどは、元病院だった雰囲気は少なく、穏やかで暖かい雰囲気が醸しだされている。壁には季節に応じた飾り付けをされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、フロア、談話室、食堂など馴染みの利用者様同士でくつろげるスペースをつくっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの椅子、棚などそばにおける人もいるが、身の回りの物品を置くことが困難な人もいる。状況によって、ご家族と話し合いながら行っている。	各ユニットに1名づつカトリック信者がおられ、神父様が毎月訪問されている。居室は広く、畳の部屋が1ユニット2部屋ある。室内と収納場所が広く、馴染みの品やマリア像を置かれている入居者もおられ、居心地良い居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で居室にいける様に目印など工夫している。ベットについては、安全に配慮しながら利用者様にあっているのか見直したりして対応している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700323		
法人名	株式会社 翔里		
事業所名	グループホーム翔里 二番館		
所在地	〒859-5512 長崎県平戸市津吉町1051		
自己評価作成日	平成22年2月12日	評価結果市町村受理日	平成22年4月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、申し送り等が終わった後、運営理念を唱和し、職場の教養という冊子を用いて感じていること、思いなど話し合っている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が日常的に来られたり、施設側から日常的に出かけて行ったりというところまでは出来ていないが、地域のスーパーに買い物にでかけたり、ドライブに出かけることはある。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度までは地域の老人会、民生委員の方の集まり、いきいきサロンの集まりで等話しをさせていただく機会があったが、今年度は出来ていない。こちらからの働きかけが行えていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項、懸案事項について、次の会議で取り上げることもあるが、一つ一つ積み上げるところまでは至っていない。会議のないようについて職員には単発的に報告しているが、そのことについて話し合う場などは現在ない。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加されており、その場で情報交換が出来たりしているが、密に連携が取れているとは言えない。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しているとは言えない。基準について正しく理解する機会を設ける。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について勉強会などで理解する機会が取れていない。今後、学ぶ機会を持つ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について学ぶ機会がもてていない。施設内勉強会、各部署でのミーティング等で機会を持つようにしていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り説明を行っている。利用料金について、起こりうるリスク、重度化した場合の対応についてなどは特に詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言葉や態度から思いを察する努力はしている。利用者様の不安などは各ユニットごとに話し合いを持つようにしている。ご家族より意見をいただく場として、面会時にコミュニケーションをとるよう心がけ、家族会などでも意見を聴かせていただけるよう働きかけている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングなど月1回行っており、その中で意見を聴く様にしている。日頃からコミュニケーションをとるよう心がけ意見を言いやすくする努力はしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回の全体ミーティングの中で、現場の状況に変化があった場合、管理者より代表者には、報告を行っているが、現場の状況をもっと知って欲しいとの意見もあった。職員の急病、急な休みにも職員全員がお互い様との思いを持ち臨機応変、勤務交代を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成21年度は、施設外・施設内共に研修の機会が少なかった。施設外研修については、1年間に最低でも1回は全職員が参加できるよう段階的・計画的な学びの機会を持つ。現在も、研修報告会などは行なっているが、研修報告書を閲覧できるようにしていない。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は実現できていないが、運営上のことや、現場の実習等などの協力を頂いたりして連携を取っている。まず、同業者同士交流も兼ね施設見学等から始めていったらどうかとの意見が出された。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面接で生活状況を把握するよう、また、本人様の思いに向き合うよう努めている。話をよく聴くように心がけている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初回面接では、まずご家族の状況が把握できるようゆっくり困っていることなど話を聴き、信頼関係を作ることが出来るよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時本人やご家族の思い、状況を確認し、その時必要としている対応が出来るようにしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることが出来るよう努め、共に支えあえるような関係づくりに留意している。食事の準備、野菜作りなどのときは、特にこれまでの経験から指導していただくことも多い。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者様の様子や職員の思いを伝え、ご家族の方が不安に思っていることはないのか？等、つかめるように努力している。ご家族と職員の思いが徐々に重なり、利用者様を支援していくための協力関係が築けるようになった。課題は、面会等が定期的に行うことが難しいご家族へは、電話・手紙等で近況等を報告はしているが十分とはいえない。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>昔から利用されている美容院にご家族の協力の下、行き続けておられる利用者様、馴染みのお店で食事を楽しまれる利用者様もいらっしゃる。一人ひとりの生活習慣を尊重するよう努力はしている。地域に暮らす馴染みの知人・友人などが遊びに来られることもある。また、買い物に出かけられた時に、馴染みの知人と会話を楽しまれるような場面もある。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個別に話を聴く機会をつくったり、相談をゆっくり聴いたり、気の合う者同士で過ごせる場面が自然と出来たり、利用者様同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。又、利用者様がストレスを抱えることが少なくなるようにも注意深く見守り支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、利用者様、ご家族の方が困らないように相談していただけることを話している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のかかわりの中で声を掛け、把握に努めるようにしている。意思疎通の困難な利用者様については、ご家族・関係者などから情報を得ながら本人様の意向に近づけるようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、自宅に訪問し利用者様、ご家族の方から生活歴、ライフスタイル、個性など情報収集しご本人様の全体像が描けるように努めている。利用後も折に触れ、ご本人様、ご家族の方にどんな生活をされていたのかを聴いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らし方や生活リズムを理解すると共に、心理面やご本人様の出来る力・わかる力に注目し、利用者様全体の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様がその人らしく暮らせるようご本人様やご家族の要望を聴き、介護計画、モニタリング等に活かしているとは言い難い。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、食事・排泄・バイタル・内服・身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなども記録しその場に出動していない職員も状況が描けるようにしている。勤務開始前には、記録等を確認し最新情報を把握した上で業務につくことを徹底している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族の状況に応じて、通院や外出時等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が、安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員や消防、老人会の方と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族の方が希望されるかかりつけ医となっている。受診の経過、現在の受診の希望等を把握して受診の支援が出来ている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が各ユニットに配置しており、常に利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間帯は、介護職員の記録を基に連携を取っている。また、緊急事態には看護職員に連絡を取り指示を仰ぐようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、出来る限りダメージを極力防ぐためその後も医療機関と連携を取っている。また、ご家族と情報交換しながら、回復状況でスムーズな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の事業所の方針について入居相談段階から説明し、利用後も状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化やご本人様のお思いに注意を払い、支援につなげている。安心して検討ができるように情報提供を行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署等の協力を得て、年に一回の応急手当の勉強会を実施している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路等の確認、消火器の使い方、煙体験など行った。運営推進会議にて民生委員の方より協力体制のことについて積極的な意見が出され現在検討中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には出来ているが、勉強会やミーティング等の折に、職員の意識向上を図ると共に、日々のかかわり方を点検し、利用者様の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。しかし、言葉遣いなどで出来ない面もある。職員相互で点検しあいが、ミーティングの場で確認と改善を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせて声掛けを行い、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったりホワイトボード等を使用し、本人が決める場面をつくっている(飲みたいもの、食べたいもの、やりたいことなど)。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方にはならないよう努めている。その日をどう過ごしたいのか自ら表現する方は少ないが、晩酌や職員と心ゆくまでおしゃべりを楽しむなど、利用者様のペースにそって、見守りながら一緒に楽しんでいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所にはくしなど身だしなみを整える物品を置くことが難しく脱衣室に保管しているものをその都度、運んでいる。朝の着替えは、自己決定が困難な利用者様には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちに沿って支援するように心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は、利用者様と相談したり、問いかけたりしながら決めるようにしている。また、買い物、調理(つわむぎ、ごぼうそぎ等)、片付けなども利用者様と共に行い、職員(献食者)も一緒に同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は嗜好等も採り入れながらバランスを配慮したものになっている。水分については、食事、おやつ以外の摂取時は、介護記録へ記載している。食べられないものがある場合は、別メニューを準備している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は、義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、尿意の表現が困難な利用者様にも時間を見計らって、また、本人の行動変化などで誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。入居時、リハビリパンツを使用していた方も現在は、布パンツに尿取りパットのみで可能となった方もおられる。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容等の工夫、乳製品を取り入れ自然に排便できるように努めている。また、散歩、体操などを取り入れている。下剤については、利用者様の状況によって必要最小限調整しながら使用することもある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯については、本人の生活習慣に合わせて行うことは出来ていないが、本人が希望される時は柔軟に対応するようにしている。入浴を拒む人に対しては、言葉掛けや入浴の順番など対応の工夫をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情などを考慮して、ゆっくり休息が取れるように支援している。就寝前に水分補給(暖かい飲み物など)なども行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態に変化がみられる時は、いつもよりも詳細な記録をとるようにし、看護師や医療機関との連携を取るようにしている。各個人々の服薬内容の理解、病状について等、再認識しなおす機会を設ける予定。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野で力を発揮していただけるようお願いできそうな仕事を頼み(掃除、洗濯物たたみ、調理、後片付けなど)、感謝の言葉を伝えるようにしている。本人の役割・楽しみなどご家族からの情報も得ながら行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分・希望に応じて常に行うことは出来ていないが、季節を肌で感じてもらうように外出行事などは取り入れて、本人の希望なども聴きとりいれるように努めている。また、ご家族の方にも協力を得て本人様が行きたい所へ行く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て少額のお金を持ってもらっている方もいる。ご家族からお小遣いを預かり、事業所が管理している方でも、外出時などには、お金を持っていただき自ら支払っていただいたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて日常的に電話をかける支援をおこなっている。手紙に関しても、一緒に書きましようか？と声掛けを行うが、現在のところ書こうといわれる方はいらっしゃらない。手紙や贈り物が届いた場合は、お礼の電話をかけられないか尋ねたりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるような七夕、クリスマスリースなどそれぞれ工夫しているが、取り外されたり、壊してしまわれることもある。冷暖房なども季節の自然の風を取り入れるようにしており、音や光の刺激などに配慮している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア、畳スペース、食堂など馴染みの利用者様同士でくつろげるスペースをつくっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの椅子、棚などそばにおける人もいるが、身の回りの物品を置くことが困難な人もいる。状況によって、ご家族と話し合いながら行っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で居室にいける様に目印など工夫してみたが、他の利用者様がそれを取って破ってしまわれ職員で試行錯誤している。ベットについては、安全に配慮しながら利用者様にあっているのか見直したりして対応している。		